Cefamandole の臨床的検討

松岡康夫・小花光夫・美田誠二・東 冬彦・藤森一平 川崎市立川崎病院内科

尿路感染症、呼吸器感染症を中心とした 24 例につき、Cefamandole を投与し、著効ないし有効例が 18 例、75% と高率に有効であった。

K. pneumoniae, E. coli, Proteus sp. 感染症に優れた効果を示し、また、Cefazolin, Dibekacin, 一次 抗結核剤に対し耐性であった Mycobacterium fortuilum に対しても有効であったことが特筆される。 副作用としては全身発疹、咽頭異和感、血小板減少が 1 例ずつ認められているが、投与中止後すみやかに改善している。

緒 1

Cefamandole sodium (以下 CMD) は米国 Eli Lilly 社により開発された新しい Cephalosporin 系抗生剤で、抗菌スペクトラムは他の Cephalosporin 系抗生剤とほぼ 同様であるが、E. coli, K. pneumoniae, Proteus sp., Enterobacter sp. などに対しより強い抗菌力を有していると報告されているい。。。今回われわれは各種感染症に対し、CMD を投与する機会を得、その臨床効果につき検討を加えたので報告する。

I. 対象ならびに投与方法

対象は昭和 52 年 6 月から昭和 53 年 1 月までに川崎市立川崎病院へ入院した患者 24 名で、男性 7 例、女性17 例、年令は 24 才から 88 才にわたり、平均58.2才であった。何らかの基礎疾患を有する者が約 2/3 を占めていた。疾患の内訳は尿路感染症 15 例、呼吸器感染症 6 例、敗血症 2 例、不明熱 1 例であった。原因菌は E. coli 8 例(全例尿路感染症), K. pneumoniae 6 例(尿路感染症 4 例、呼吸器感染症 1 例、敗血症 1 例), Proteus sp. 2 例、Pneumococcus 2 例、その他 3 例、不明 3 例であった。

投与方法としては 1 日 1.5 g から 6 g を 2 ないし 3 回に分割し、静注または点滴静注ないし筋注した。 1 日 3 g, 8 時間毎静注例が約半数を占めた。使用期間は 2 から 34 日にわたり、平均 9.4 日であった。

Ⅱ. 効果判定基準

効果判定は以下のとおり行なった。

著効 (Excellent): CMD 投与開始後すみやかに原因 菌の消失をみ、中止後も再発のみられなかった例、臨床 的に自、他覚症状の著明な改善をみたもの。

有効 (Good): 投与中および投与後にわたって原因菌の消失をみた例, 臨床的に自, 他覚症状の明らかな改善

をみたもの。

やや有効 (Fair): 投与中原因菌の消失をみたが、投与中止後 再発した例、 臨床的改善が不充分であったもの。

無効 (Poor): 投与中および投与後にわたって原因菌の消失しない例。 臨床的改善のみられないもの。

不明 (Undetermined): 原因菌の不明な例, 副作用のため途中中止した例。

Ⅲ. 成 績

1. 治療効果 (Table 1)

Table 1 に示したように、 著効ないし有効が 18 例を 占め、やや有効 1 例、無効 2 例、不明 3 例であった。 有効例中, 症例 11 はマイコプラズマ肺炎と考えられた が、投与開始後発熱、赤沈、CRP、胸部レ線などに明ら かな改善がみられ、細菌学的には不明であったが、混合 感染に対し効果があったと考え、有効と判定した。症例 8 は原因菌不明の肺炎で、投与開始後自覚症状ならびに 胸部レ線の改善はみられたが、37℃ 台の発熱続き、赤 沈、CRP も改善しなかった。 これは基礎疾患である慢 性関節リウマチの活動性によるものとも考えられたが、 一応やや有効と判定した。無効例中, 症例 9 は K. pneumoniae による腎盂腎炎であった。 CMD 1 日 3 g 筋 注, 5 日間投与したが全く無効で、その後 Gentamicin 80 mg の投与で軽快している。症例 13 は 39~40℃ の 無症候性発熱を 6 日間認め, 白血球増多(17,100/mm³), 核の左方移動も認め、尿中白血球多数であったが、各種 細菌検査はいずれも陰性であった。 腎盂腎炎の疑いで CMD 1 日 3 g, 5 日間静注 し、 尿所 見、 末梢血所見 の改善をみた が高熱は持続した。 投与中止後翌日には 37℃台まで解熱し、3日目以降は全く無熱となった。薬 物アレルギーによる 発熱も疑われたが、 発疹、 好酸球 増多症、肝障害などはみられなかった。

Table 1 Clinical results of CMD

							Dosage of CMD		
Case No.	Name	Age	Sex	Diagnosis	Underlying discase	Bacteriology	Daily dose (g x times)	Duration (day)	Total dose (g)
1.	M. T.	73	F	Acute cystitis	Gastric cancer	K. pneumoniae	2 (1 x 2)	9	18
2.	Y. M.	67	F	Pyogenic arthritis Sepsis	Autoimmune hemolytic anemia	Mycobacterium fortuitum	6 (2 x 3)	34	208
3.	К. Т.	37	F	Chronic pyelonephritis		E. coli	6 (2 x 3)	14	82
4.	Y. K.	32	F	Acute cystitis	Guillain-Barré syndrome	E. coll	3 (1 x 3)	7	18
5.	K. I.	59	M	Acute pyelonephritis	CO intoxication	Proteus mirabilis	6 (2 x 3)	7	40
6.	н. І.	32	F	Sepsis	-	K. pneumoniae	3 (1 x 3)	14	40
7.	Н. Н.	47	F	Acute pyelonephritis	Liver cirrhosis	K. pneumoniae	1.5 (0.5 x 3)	8	. 12
8.	K. O.	78	F	Pneumonia	Rheumatoid arthritis	Undetermined	3 (1 x 3)	14	43
9.	T. K.	32	F	Acute pyelonephritis	Congestive heart failure	K. pneumoniae	3 (1 x 3)	5	15
10.	U. H.	65	F	Acute pyelonephritis	Diabetes mellitus	E. coli	2 (1 x 2)	7	14
11.	T. U.	88	М	Pneumonia	Chronic pyelonephritis	Mycoplasma pneumoniae	3 (1 x 3)	10	30
12.	Y. Y.	77	М	Acute pyelonephritis	Cerebro-vascular accident	E. coli	3 (1 × 3)	4	10
13.	N. M.	24	F	FUO	. stdc.:	Undetermined	3 (1 x 3)	5	13
14.	E. N.	46	F	Acute pyelonephritis	Cerebro-vascular accident	E. coli	2 (1 x 2)	6	12
15.	I. A.	70	F	Acute pyelonephritis	Cholelithiasis	E. coli	3 (1 x 3)	6	16
16.	E. N.	67	М	Lung abscess	-	Undetermined	3 (1 x 3)	4	11
17.	К. Н.	76	M	Acute pyelonephritis	Diabetes mellitus	Micrococcus	2 (1 x 2)	7	14
18.	К. Т.	61	F	Acute pyelonephritis	-	E, coli	1.5 (0.5 x 3)	2	2.5
19.	Н. Т.	73	F	Acute pyelonephritis	Rheumatoid arthritis	K. pneumoniae	3 (1 × 3)	13	37
20.	F. T.	53	F	Acute pyelonephritis	_	E. coli	3 (1 x 3)	6	16
21.	м. О.	76	M	Pneumonia	Hypertension Cholelithiasis	Pneumococcus	3 (1 × 3)	15	43
22.	K. N.	29	M	Pneumonia	-	Pneumococcus	3 (1 x 3)	10	28
23.	Т. О.	70	F	Acute pyelonephritis	Rheumatoid arthritis	Proteus rettgeri	2 (1 x 2)	7	14
24.	S. T.	64	F	Chronic bronchitis	Bronchiectasia	K. pneumoniae	4 (2 x 2)	11	42

		Effect			
Method of administration	Combined antibiotics	Bacteri- ological	Clinical	Side effect	
D. I.	-	Good	Good	-	
D. I.	-	Good	Good	-	
I. V.	-	Excellent	Excellent	_	
I. V.	_	Excellent	Good	_	
I. M.	-	Excellent	Good	_	
I. V.	-	Excellent	Excellent	_	
I. M.	-	Good	Good	-	
I. V.	_	Undetermined	Fair	_	
I. M.	-	Poor	Poor	-	
I. V.	-	Good	Good	-	
I. V.	_	Good	Good	_	
I. M.	-	Good	Undetermined	Thrombocytopenia	
I. V.	-	Undetermined	Poor	-	
I. M.	-	Good	Good	-	
I. V.	-	Good	Good	-	
I. V.	-	Undetermined	Undetermined	Sensation of pharyngeal obstruction	
I. V.	_	Good	Good	-	
I. M.	-	Good	Undetermined	Skin eruption	
I. V.	-	Excellent	Good	-	
I. V.	-	Excellent	Excellent	_	
I. V.	_	Excellent	Good	-	
I. V.	-	Excellent	Excellent	_	
I, V	-	Good	Good	-	
D. I.	_	Good	Good	-	

次に主な 2 症例を示す。

症例 2, 67才, 女性, 化膿性関節炎, 败血症(Fig.1)

基礎疾患である自己免疫性溶血性貧血治療のためプレドニソロン 30 mg 投与されていたが化膿性足関節炎を併発、その後肺炎、頸部リンパ節腫大も認め、関節穿刺液、リンパ節から Mycobacterium fortuitum を検出した。SM、PAS、INH による 3 者併用療法、Cefazolin、DKB 併用療法は共に無効であった。CMD 1 日 6 g、8 時間毎の点滴静注療法を開始、その後胸部レ線は改善しリンパ節腫大も消失す。しかし、化膿性足関節炎は、関節腔に化膿巣を形成したためなかなか改善せず、結局切

開,排膿等の外科療法を行なった。

症例 6, 32才, 女性, 败血症 (Pig. 2)

悪寒戦慄を伴った高熱,心窩部痛続くため入院,血液培養で2回 K. pneumoniae 検出す。CMD 1 日 3 g, 8 時間毎の静注開始, 48 時間後には下熱し、その後の血液培養ではいずれも陰性であった。菌の侵入門戸は不明のままであった。

2. 副作用 (Table 1, 2)

CMD 投与開始後臨床上および臨床検査上異常所見を 認めたのは6 例であった。 症例 12 では CMD 投与前か ら血小板 5.5×10⁴ /mm⁸ と血小板減少症を認めていた

Fig. 1 Case 2: Y. M., 67 y., \$\varphi\$, Pyogenic arthritis, Sepsis (Mycobacterium fortuitum)

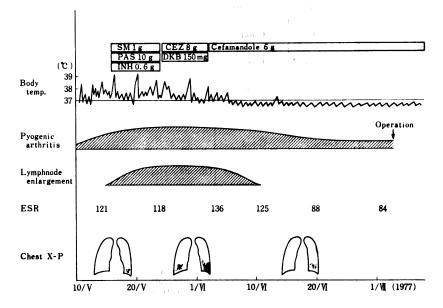


Fig. 2 Case 6: H. I., 32 y., 2, Sepsis

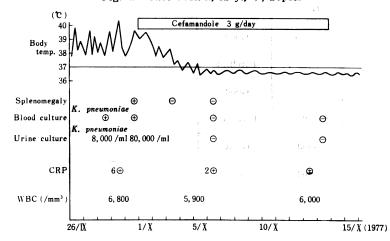


Table 2 Laboratory data on CMD administration

Creatinine ESR CRP (mg/dl) B; A B; A B; A B; A 0.8; 0.7; 0.8 0.7; 0.7; 0.7; 0.7; 0.7; 0.8 1.0; 1.0; 1.0; 1.0; 1.0; 1.0; 1.0; 1.0;	82 81 111 65	
ESR B A B 3 3 + 4 136 84 4 + 4 100 90 6 + 4 100 90 6 + 4 107 96 4 + 4 107 96 4 + 4 106 94 6 + 4 106 94 6 + 4 26 24 - 4 26 24 - 4 32 17 + 4 65 77 + 4 69 32 4 + 6 90 90 90 90 80 90 90 90 80 90 90 90 90 80 90 90 90 90 80 90 90 90 90 80 90 90 90 90 80 90 90 90 90 80 90 90 90 90 80 90 90 90 90 80 90 90 90 90 90 90 90	0.7; 0.6 82; 81 0.9; 0.8 111; 65	
ESR B 1 136 1 11	0.7; 0.6 82; 0.7; 0.6 82; 0.9; 0.8 111;	
ES B B B B B B B B B B B B B B B B B B B	0.7; 0.6	
eatinine mg/dl) B A B B A B B B B B B B B B	0.7	
mgdd mgdd mgdd mgdd mgdd mgdd mgdd mgdd	0.7	
	5 6 1 6 1	
BUN BUN B A B A B 22.2; 18.7 14.5; 13.6 13.0; 20.9 11.1; 10.9 21.2; 14.4 11.5; 13.2 10.3; 11.0 74.9; 58.4 37.2; 13.9 20.0; 19.6 20.0; 19.6 18.8; 8.6 18.8; 8.6 18.0; 10.1 18.0; 14.2 18.0; 17.1 18.0; 14.2 18.0; 14.2 18.0 18.0 18.0 18.0 18.0 18.0 18.0 18.0	-	
BU (mg/c)	13.1	
P A A A A A A A A A A A A A A A A A A A		
A1-P (I.U.) B A A A A A A A A A A A A A A A A A A A	-	
S-GOT S-GPT (I.U.) B A B A B B	-	
6-GOT (1U.) B A A	+	
S-GOT (IU.)	12; 9	
	33.4	
Platelet (× 10 ⁴) Platelet (× 10 ⁴) B A B A B A B A A A	5 5 4	
Plat (x 1) 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 1		
E S S S S S S S S S S S S S S S S S S S	0 0	
A A A 3000 1 16,500 1 2,800 1 2,800 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 10,000 1 1,300 1 10,000 1 10	5,200 6,500 5,300	
B M		
W I B B B C C C C C C C C C C C C C C C C	13,800	
2 1 1 6 5 5 6 4 8 8 5 6 2 9 7 1 4 5 7 8 7 5	+++	
R B C (× 10 ⁴) B A B B A B A B B A B B A B B A B B A B B A B B A B B B A B B B B B B B B B B	1 444 6 329 9 449	
1		A : After
10 10 10 10 10 10 10 10	9.0	Y :
Hb (g/dl) B A 10.4 9.6 8.8 5.7 9.3 9.1 11.4 12.6 13.3 12.9 10.1 12.1 10.1 12.1 10.1 12.1 10.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.2 11.3 12.2 13.9 11.6 12.7 13.9 11.7 12.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.3 13.6 13.7 13.5	10.2; 9.0 3 13.4; 13.4 4	
	+++	6)
Ht (%) B A 29.3 29.6 29.3 29.6 29 29.3 31.7 28.9 31.5 35.2 33.4 36.3 31.8 36.0 25.6 24.5 25.6 23.6 37.2 36.8 34.0 32.7 36.6 36.3 36.8 34.9 39.8 34.9 39.6 42.2 41.8 39.3 26.7 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.5 27.	41.0 42.8 30.1 25.3 42.4 42.9	B : Before
Ht (%) B A 29.3 29.6 29.3 29.3 29.6 31.7 28.9 31.5 35.2 33.4 36.3 33.4 36.0 25.6 23.6 37.2 36.8 34.0 32.7 36.6 36.3 36.6 36.3 36.6 36.3 36.6 36.3 36.6 36.3 37.2 36.8 39.8 34.9 39.6 42.2 41.8 39.3 26.7 27.5 45.7 39.0 50.4 52.0	30.1	B: E
	7. O. 7. O. 7. T.	
	+	
Case No. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1.	23.	

が、腎盂腎炎の診断のもとに CMD 1 日 3 g, 8 時間毎 に筋注開始, 4 日目に血小板 1.7×104 /mm3 とさらに 減少し、10g 使用した所で投与中止した。 その後 2 日 目には 6.3×10⁴/mm³, 5 日目には 15.2×10⁴/mm³ まで 改善している。また、本例では軽度の腎機能障害の出現 もみている。症例 16 では肺化膿症の診断で CMD 1 日 3 g. 8 時間毎静注開始したが、2 日目から静注時咽頭異 和感を訴えた。また、木例では4月目の静注後約30分 経ってショック状態となり投与中止しているが、投与前 にも 1 回。中止後 3 日目にも 1 回ショック症状を 認めており、 これは CMD の副作用によるものでは ないと判断した。症例 18 では腎盂腎炎の診断のもとに CMD 1 日 1.5 g, 8 時間毎筋注を開始したが、翌日か ら全身に瘙痒を伴った小紅斑出現し投与中止している。 その後 2 日で発疹は消褪した。 本例では白血球, 血小 板の軽度減少も認めているが、肝機能、腎機能には異常 を認めなかった。その他の例での検査成績をみると、ま ず末梢血では症例 2 において貧血の増強がみられるが, これは基礎疾患に基づくと思われる。肝機能検査では症 例 5 および 19 において、 一過性の軽度トランスアミ ナーゼ上昇を認めている。 腎機能検査では症例 2 で BUN の上昇 (14.5→31.6) がみられたが、本症例は消 化管出血を伴っており、このための上昇と判断した。こ の他には先に述べた症例 12 以外, 特に変化を認めてい ない。

Ⅳ. 考 按

今回の症例は E. coli, K. pneumoniae による尿路, 呼吸器感染症が中心となっていたが, CMD 1.5~6g の投

与で高い有効率を示し、重額なる副作用を認めた例はなかった。また、軽度ではあるが高窒素血症を伴った4例についても CMD 投与後腎機能降害の悪化をみた例はなく、今後臨床上期待し得る薬剤であると考えられた。

また、1 例ではあるが、非定型抗酸圏である Mycobacterium fortuitum による全身感染症に対し CMD が有効であったことが特策される。本例において、関節液ならびにリンパ節より分離された壊は、抗酸菌染色陽性のグラム陽性桿圏で、普通寒天培地に発育せず、 22° C から 42° C の条件下の小川培地で 2° 3 日で淡黄白色の成熟コロニーを形成し、ナイアシンテストは陰性であった。これらのことから本閣は非定型抗酸菌 IV 群、 Mycobacterium fortuitum と同定された。一般に、非定型抗酸菌、特に第 IV 群では各種化学療法剤の無効な例が多いとされている。本例においても各種抗結核剤、アミノグリコシッド系、セファロスポリン系 抗生剤が 無効で、CMD が有効であったことは注目され、今後も検討すべき問題と思われた。

文 献

- KAISER, G. V.; M. GORMAN & J. A. WEBBER: Cefamandole a review of chemistry and microbiology. J. Infect. Dis. 137 (Suppl.): S 10~S 16, 1978
- WICK, W. E. & D. A. PRESTON: Biological properties of three 3-heterocyclic-thiomethyl cephalosporin antibiotics. Antimicr. Agents & Chemoth. 1: 221~234, 1972
- WASHINGTON II, J. A.: Differences between cephalothin and newer parenterally absorbed cephalosporins in vitro. J. Infect. Dis. 137 (Suppl.): S 32~S 37, 1978

CLINICAL STUDIES ON CEFAMANDOLE

YASUO MATSUOKA, MITSUO OBANA, SEIJI MITA,
FUYUHIKO HIGASHI and IPPEI FUJIMORI
Department of Internal Medicine, Kawasaki Municipal Hospital

- 1. Cefamandole sodium (CMD) was administered by i.v. or i. m. injections to 24 patients with urinary tract infection (15 patients), respiratory tract infection (6 patients) and others (sepsis; 2 patients, FUO; 1 patient).
- 2. Clinical response to therapy was excellent in 4 cases, good in 14 cases, fair in 1 case, poor in 2 cases and undetermined in 3 cases. Effective rate was 75%.
 - 3. CMD was especially effective to infections by E. coli, K. pneumoniae and Proteus species.
 - 4. CMD was also effective in the treatment of Mycobacterium fortuitum infection.
 - 5. Side effects were found in three cases:

Thrombocytopenia, skin eruption and sensation of pharyngeal obstruction respectively. But they were all transient.